

刊夕日三十月九

常磐每日新聞

定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料 五圓以上 一行五圓 五圓以上 一行五圓
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

戌辰役の回顧

平陽 老人

十、白石、福島仙臺の動き

此の日(七月朔)板倉勝靜小笠原長行白石に到る是より先、同盟列藩議して仙臺米澤二藩より使を會津に派し二侯に請ふて白石城に於て列藩の會議を裁断せられんことを以てす、兩侯即ち白石に到りしに諸藩未だ會するものあらず、二侯即ち福島に赴き棚倉城主阿部真(正者)に會す、我が藩桐西郷頼母(會津)も亦來り會す、蓋し棚倉兵を先鋒とし棚倉城を回復し白河城を攻撃せんとするなり。

是より先奥羽鎮撫總督府は仙臺に在りしが、列藩の西軍と鋒を支ふるに到りしより之を仙臺に置くは徒に東軍の爲め利用せられ其の氣勢を添ふる觀なきにあらすとなし九條總督は秋田駐在の澤副總督と共に一旦歸京稟命の要ありと託言し五月十八日醍醐參謀と共に仙臺を發し盛岡を経て七月朔秋田に入る。

奥羽越列藩白石に會盟し公議府を置き仙臺、會津、米澤三藩より輪王寺法親王に請ひ列藩の事を統裁せら

ノート

濡れた洋服は遠火にかざし乾いたらアイロンをかける自然乾きや強い火はいけません。

八幡祭り

盆踊 (上)

浦島 太郎

記者足下 舊盆も連日の晴天なりしが来るべき八幡祭も關柳井嶽祭も、地方主要の年中行事に有之候へば、何卒晴天に恵まれ候様、祈居候次第に候然して既に一兩日間に迫りたる八幡祭に就き茲に一言貴聽を煩はし度候也。

飯野八幡は御承知の通鎮守府將軍源頼義が今より八

百八十年許前なる天喜の頃男山八幡を勧請して之を物見ヶ岡に祭り、天下泰平武運長久を祈りしものかと承り候、而して徳川幕府の初期鳥井氏が平城を築城するや、今の處は物見ヶ岡より一丈方地盤爽爽なりとて即ち神體を此處に奉遷したるもの由承り候、境域廣潤老樹之を圍み社殿は宏明にして若宮社與庫神樂殿唐大巨門反橋等敷置整々として之に資財の点丈相添候は、優に國幣社たる資格ある者と承知仕居候、由來八幡の社は武の神として男山を初めとし鎌倉、深川、其の他全國に普く祭祀せられ、名古屋にも熊本にもと申様の古屋にも熊本にもと申様の

【朝】すまし汁一八杯豆腐
 【晝】五もくすしーおぼろ
 椎茸、酢漬あぢ、かんぴょう、薄焼き卵
 青豆、酢どろ生姜
 【晚】付焼きー生揚とうふ付焼、おろし大根

事にて如此津々浦々迄、祭られ候は一に神徳に因り候者に可有之、祭日には鎧武者の行列流鏑馬等執行はれ候者有之候て當處にては陰曆八朔神饌の供御より始まり、七日流鏑馬座的、十四

日、十五日流鏑馬木羽的の行事あり、十四日宵祭には向拜前の炬火歌々として神樂の鈴の音は徹宵澄み渡り十五日の天明と共に神輿は本殿を發し笛、太鼓、猿田彦、騎馬の祠官、二旗の錦旗、二張の彫弓のみの簡素至極にして奥ゆかしき御列は肅々として静かに、秋の清々しき長を極めて程近き八坂神社の境内に渡御あり午後三四時には穆々たる儀列にて還御これあり以上余が幼少の頃より拜したる状況は如此にて他の祭典には見るを得ざる典雅と壯重を兼ねたるものに有之、今は祭儀は陽曆九月を以て行はれ且幾分か、すべてが弛緩せられ居候様被感候も要するに稀に觀るべきの祭典にして當日に於ける立駢ひたる玩具の賣店やら郷土色豊かな生薑市など珍しきものにて、亦地方の誇りたるを失はざる者に御座候引續ける關柳井嶽の祭を兼ねて遠地より參詣者の多きは怪しむに足らざる事かと存候。

藩政時代飯野八幡は士族の氏神であり北手二三ヶ村の鎮守にても有之候、平千軒小名千軒の時代平士族總數は五百軒に候も之は江戸住の者を合せたる員數とて國語丈の軒數は如何程なりしか承知不致候も此國語士族も明治初の廢藩の爲め懸て四散八離し現在居住者は何分一かにも相成候事と存候、夫も今は平町の鎮守は稻荷一ツに定りたりとかに

て、町の間にか氏神が轉向し名義書き替に相成居申候て今は當八幡宮は在方のみの維持に相成候由、然し所在地が平町にて他の地方より平の八幡様をして崇められ居候へば尙又此宏壯にして古色の社殿のあるが爲當平町も自然位付ケられ、戸數五千にも相成候今日も成上りの市街とは侮られぬ一因にも相成何處となく平町の重味を加居候次第に付事實は矢張平町の祭神として平町の一公民たる余輩が此祭禮に於ける境内に行はる、盆踊につき一言を試みんとするは別段の出過ぎとも思ひ不申候。

秋の流行は三井
 本場 銘仙の各種
 斯界の新柄
 三三年型ショール
 毛斯リン着尺の粹
 三井呉服店
 平陽三井呉服店
 電話三八八番

開店披露
 今般平町田町「松月堂向」へ藥種商を開業致しました各種藥品は勿論精々良品を選び親切を旨とし凡てに於て大勉強致しますから何卒多少に不拘御用命下さる様御願ひ致します。
 藥種賣買、工業藥品
 衛生材料、各種染料
 化粧品、其他
 阿部藥舖
 平・田町(松月堂向)

毛糸
 今年度新色全部揃へました。
 何卒御来店下さい……
 合名 会社 ハシモトヤ糸店
 平・田町 電話十四番

外科
 専門線 X
 上田外科醫院
 平町南町
 電話一二九番

農村幾分順調か

在米高が一割方多い

平穀物検査所管内の九月一日現在の在米高は合計三萬二千四百六十六石其内平方面部在米は一萬八千八百四十四石、勿來方面部が八千六百三十六石、四倉方面部が四千六百八十八石、例年より一割方多い是れは、藪の相場が良く會つて匡救事業に濡されて産米を手離す者が少なかつた爲である

泉州農事講演 石城郡泉州農會では来る十八日午後一時より同村小學校で農事講演會を開くが講師は郡農會柴田技手であると

兩訓導送別會 平第一小學校では本日午後三時より理科室で今般退職した齋藤坂内兩訓導の送別會を催した

進學受験志望は

警中に四百廿名

放課後の準備を早朝に改む

警中では從來上級學校受験者の爲め放課後英、漢、數の補充教授を行つたが本年よりは毎朝午前六時より二時間宛行ふ事になり今月下旬より開始するが各上級學校の受験志望者は目下の處左の如く各學年を通じて四百二十名である

- 士官學校二〇 兵學校二
- 五 高等學校一〇二 大學二
- 學科一六 大學二
- 高等工業五四 高等商業一八 高等農林一二 高等商船四 外國語學校六 高等師範二七 師範二部五
- 一 醫專三二 美術學校五 專門學校八 高等園藝二 體操學校二 幼年學校五

兒童競技打合 石城郡第三區兒童競技會の

平町では来る十六日午後一

平町會

十六日に

平町では来る十六日午後一

時より役場會議室に於いて町會を招集左記諸案を附議する

- 一、八年度隨時特別稅戶數割賦課額の件
- 一、職業紹介所紹介規程

軍事教練の査閲

川村二十九聯隊長來平

既報第二十九聯隊長川村大佐は来る十三日平商、十四日警中で各軍事教練査閲を行ふが兩校の査閲種目は左の如く終つて講評並に時局に關する講演があると

(五年)歩哨斥候 小隊戰 團教練(四年以下)手旗通信 中小隊教練

滞納差押 財産公賣

平稅務署では國稅滞納二百六十件人員百名に對し差押へ財産公賣處分を去る十一日の平町より左記日割で開始された

- (十一日)平(十五日)飯野 赤井 内郷 好間
- (十六日)夏井(十八日)江名 小名濱(十九日)大浦
- 草野(廿一日)四倉(廿五日)川前 小川(廿六日)磐崎 湯本(廿七日)錦
- (廿八日)上遠野(廿九日)箕輪(卅日)來

中改正の件

- 一、區長及び區長代理者推薦の件
- 一、寄附採納の件
- 一、第四小學校敷地買収に關する件

松崎稻荷祭り

平町間町松崎稻荷神社の祭典は明日執行されるが餘興として三原山踊、落語、奇術、花火等がある

警女競技練習

警女競技部では来る十月七日福島高女に於て開催される縣下女子中等學校明治神宮豫選會に出場すべく目下各係教練コーチの下に練習中であるが競技種目は百米、二百米、四百米、八百米、一千二百米、走巾跳、走高跳、三段跳、棒高跳、圓盤投等で出場選手は今後練習の上決定する

- 演「夢の花嫁」 阪妻プロ 阪東妻三郎 櫻木梅子主演「變幻七分賽」前篇
- 平町人事
- 回出 生
- 柳町八 早川庄喜氏 二女 スミ子
- 回婚 姻
- △古銀治一四 小和口三郎 氏(二五) 柳町九山崎喜和子(二二)
- △台灣台南市白金町三丁目 八九 益田清秀氏(二五) 三丁目一大槻正子(二二)
- 回死 亡
- △新川町三三 山森鐵吉 (七八)
- △研町一九 朝比奈ハツ (七七)
- △杉平九北海道勇拂郡厚真村字振一 小谷繁子(三九)

巖谷先生!

川崎小島

常設館たより

△平、館 日活時代劇大谷日出夫 花井蘭子主演
『曠野の果』前編 日活現
代劇伊達里子 田村道夫
主演『眞球夫人』 パラマ
ウントオールトキキ
スタークラブ フランセ
スター主演『密林の王者』
△世界館 新興時代劇雲井龍之助 平塚泰子主演
『繪本雲助日記』 新興現
代劇松本泰輔 森靜子主

故)の介添えに依り博文館の應接室にお訪ねしたのが最初である。

◇竹貫氏は豫め先生にお話しをして置いて下さつたらしく「これが川崎です」と紹介してくれた、僕は多年愛讀限りなかつた『少年世界』未だに手離すのが惜しく當時の「少年世界」は一冊も洩れなく所蔵して居る(で馴染みになつて居る先生、お伽の小父さんとして崇敬の的であつた先生に初めて御拜眉の榮を得る悦びにわななきながら、先生のお顔を見守ると、常に誌上の寫真で見た姿と變りなく、男らしいその髯と、優しく見張られた眼元とは、一層懐慕の念を深からしめた。

◇「君は晝飯は未だだらう?」と優しくお尋ねになつて居る、僕は早晝を食へてお訪ねしたのであつたが、折角のお尋ねにどう答へてよいやら、たゞモジ、モジして居たのを、先生は僕が遠慮して居るものと見てとられたか、傍らの竹貫氏を顧みて「どうだスキ焼きでも一所にやるか」と云はれる。

◇先生と竹貫氏に伴はれて電車に乗り、銀座の名前は忘れたが東側のスキ焼屋に連れて行かれた、何しろ育ち盛りの僕であつたが、先きに晝食を済まして居ると、敬慕する先生の前に在る心の顫えに胸が一ツ杯で、初め、食へるスキ焼の味も舌に一寸も馴染まなかつた。

◇先生は頗る御機嫌で御飯を幾度もお替へになりながら何彼と僕に話しかけられた。斯ふして先生の健啖さは初対面の印象の一つになつて居る。

金銀高價買入

各國時計・眼鏡・貴金屬 御修繕は専門の當店へ

根本時計店

平・二(電話六〇七番)

草汁

純郷土 文藝誌 原稿募集—短篇小説、短歌、詩、俳句、民謡等

發行所 草汁堂 千葉縣山武郡公平村求名二四八 福島縣平町胡麻澤一七 福島縣平支部 窪田志朗

「アンマー」の大聲に 泥酔漢驚き

互に膽を潰し 大立廻となる

平町南町飲食店浪花屋事藤澤義之助長男義雄(三)は昨十二日夜十一時頃何處で飲んだか強か泥酔し千鳥足で歸宅を急ぐ途中背後で突然「アンマー」と張り上げた聲

十九反、賣上金三百四圓、羽二重が十反、六十圓、生織及び絹類九反、六十圓、銘仙及節織十反、三十五圓、平絹八反二十四圓等である

水戸宇都宮兩運輸事務所管内現業委員三十餘名の一行は來月十日新井東鐵局長に引率されて來郡内郷村磬城炭礦坑内を視察する

司法記念日に 平町法曹祝宴

平區裁判所では來る十月一日が司法記念日に當るので詔書奉讀式舉行後法曹關係者一同にて祝宴を催すと

鐵道現業委員 磬炭坑内視察

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間) お話「人間を不精にする機械」本間清人
後六、二五(こたばの講座) 「言語の年齢」文學博士 武田祐吉
後七、三〇(講義「弱者の更生」) 司法大臣小山松吉
後八、〇〇(謡曲) 獨吟三

明日の部

観世左迄
後八、四〇(所作劇) 「雷神」實川延若一座 長
味線中唄 杵屋勝五郎 三
味線 杵屋佐吉
後九、三〇(時報ニュース) 氣象通報 番組豫告

前六、三〇(基礎獨語講座) (お話)「あゝ小波のおぢさん」江見水陸
前九、一〇(料理献立) 朝鮮料理「コンゴウサンヌン」成田玉純
前一〇、三〇(家庭講座) 「季節向家庭料理」朝倉長吉
後〇、〇五(管絃樂) 東京ラヂオ、オーケストラ
後一、一〇(野球試合實況) 「東京大學野球聯盟リーグ戦」神宮球場より中継
後二、〇〇(婦人講座) 「晩夏初秋の色どり」恩地孝四郎

後六、〇〇(子供の時間) (お話)「あゝ小波のおぢさん」江見水陸
後六、二五(英語講座) 岡田實磨
後七、三〇(趣味講演) 「書題に就て」菅橋彦
後八、〇〇(謡曲) 獨吟三
題の内) 二三井寺 實生重英
後八、四五(哥澤「薄墨」) 「小野お道」哥澤芝金との外
後八、五五(ラヂオドラマ) 「常長月の浦の船出」神田五郎他大勢

乃木將軍の 肉聲を謹聴して

全校生徒が粟飯の試食 平第二校の乃木祭

既報平第二小學校の乃木祭は本日午前八時より講堂に舉げられ祭壇の前に立つた津田校長先生の挨拶あつて職員生徒一同拜禮

(二子を失つた静子夫人) 五年小園井瑞美(乃木將軍のどことが偉いか) 同根本ツネ(乃木將軍の幼年時代) 同佐川周子(七夕竹) 同安藤憲子(乃木夫人の質素) 六年桐谷つねのお話に續き五年生一同の乃木大將遺訓の朗讀や全校生徒の水師營の會見の唱歌等あつたが一同にて乃木將軍の肉聲入りのレコードを謹聴しながら粟飯、稗飯の試食をして將軍のありし日の面影を偲んだ

八幡神社の宵祭りに當るのて午前八時一同参拜し翌本祭りには休校するが磬中、磬女、平商の各中等學校では十五日に参拜すると

澤渡諏訪祭禮

石城郡澤渡村字下市萱に鎮座する諏訪神社の祭典は明十四十五の兩日行はれ地元青年團の演劇、浪花節等の餘興がある

刑餘者を 同情せよ

けふの宣傳
既報平自營會では本日司法保護デーに當るので石城佛敎慈善會と共に「刑餘者を排斥せよ」に招きよびて就職と不安なき同情の保護を」と印刷したビラ數千枚を管内全部に撒布した

少年劍士 愈よ練習開始

平第一小學校に新設した劍道部は愈よ來る十八日より横田、水竹、井上、根本菊の四指導の下に毎週月木の兩日練習を行ひ明年三月開催される郡下小學校兒童武道大會には華々しく出場すると

平職業紹介所報告

回人を求める方
△菓子製造見習 二十迄 尋卒 月五圓(平町某)
△配達 十八才 尋卒 七八圓(平町某牛乳店)
△小店員 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
△女中 二十迄 尋卒 月六圓(平町某)

平青年訓練所の 振興を圖る後援會

平町青年訓練所の趣旨徹底及び振興を圖る爲め此の程後援會が組織されたが同會の事業は入所出席の奨励、設備の充實等に務め生徒の表彰保護、講演會開催等の外各所に視察員を派遣見學する等訓練處振興に必要と認めたる事項を行ひ會長には平町長、副會長には平町軍人分會長及び青年團長を宛て此外評議員や幹事を置く

出荷薄の 四倉爾市

晩秋蠶氣構へ
四倉爾市場初秋蠶取引は去る十日頃より出荷薄となり昨十二日には取引僅かに五十五貫相場は最高三十八圓最低三十四圓八十錢馴三十三圓九十錢で晩秋蠶は十五六日頃よりポツ／＼出廻り始めると

町有地 競賣入札

平町役場では町有地の田町舊平陽女學校跡及び南町火見橋敷地、三丁目丸ぼん商店傍通路の拂下げの爲め來る廿六日午後一時より役場會議室に於いて入札を行ふ

裁判所たより

△既報決闘殺人傷害致死事件に關し原審通り懲役六ヶ

座談會 平稅務署で

石城醸友會では來る廿、廿一の兩日平稅務署樓上に於いて酒造に關する座談會を催し仙臺稅務監督所小池技手の講演がある

絹織類の 平町生産

去月中の分
平町役場で調査した同町去月中の絹織類の生産高は總反高七十六反、賣上金四百八十三圓で最高は縮面の三

八幡神社参拜

平町各小學校では明日縣社飯野

手中の玉に 逃げられて

石城郡町字中島藝妓屋若竹方抱藝妓勇事伊藤ハナ(三)は七月末同町の伊藤平治(四)に三百五十圓で身受され同町で飲食店を営んで居たが去る七日數百圓の家財道具を賣り飛ばし豫ねて馴染の馬上通(三)と手に手を取つて行

裁料面談

△事務員 二十六才 佐賢 卒 給料面談(高久村某)
△難夫 三十九才 尋卒 給料面談(平町某)
△看護婦要習 十九才 産婆校卒 給料面談(湯本町某)
△事務員 二十七才 中三 修 給料面談(茨城縣某)

銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第三十九回 血に飢ゆる村正

正則公から褒美

手負なれども強力の勝平太
冥土の道連れにいたさんと
おみちの首を引ッ抱へ、咽
喉の邊りへ拳を當てアレー
といふ聲を、何處で聞いて
居りましたか裏口から躍り
込んだる百太郎、腰に帯び
たる小脇差、抜く手も見せ
ず横合より勝平太の左の肩
先へ斬り附けた、脾腹に深
傷を負つて居る所へ、子供
ながらも一心こめて斬り込
まれたるのだから、アツと
云つてバツタリ倒れる、
み「オー百太郎、どうして
お前は」



百「阿母さん、今町の宿ま
で行かうと思ひましたが、
何となく氣になりますから
御使に行きません、先刻
から木小屋へ這入つて様子
を見て居ります中に此有様
阿母さんに間違ひがあつて
はならないと思つてとび込
んで来て斬りました」
み「オー宜く助太刀をして
下すつた、お前が居なけれ
ば此處で返り討になる所」
とおみちは勇氣いやまし
て一旦抜いた短刀を再び取
つて胸元へ刺通した、ウー
ンと勝平太のたうち廻る
終に此處に落命を致しまし

た、其騒ぎの處へ仲間可助
モウ大抵行つても宜いと思
ひましたから、門口まで來
るとウーン〜といふ迂鳴
り聲、ハテ變だと開切つて
ある戸のすきまより内を覗
けばこは如何に四邊は一面
にからくれない母子の者が

進致しました、支配頭であ
りますから、大橋茂右衛門
も右の由を聞いて捨置かれ
んとあつて、目附役小泉忠
兵衛、瀬尾與左衛門の兩名
を遣はす、兩人は早速現場
へ參つて見ると母子の者は
勝平太の首を揚げて佛前に
供へ頻りに回向をいたして
居ります、尤も可助が注進
してから兩人乗込んで來る
まで一里の道を往復して居
りますゆゑ幾ら急いでも彼
是一刻足らず掛つて居る、
其間に悉皆と始末をいたし
此の場を逃げるなどいふ
無分別はいたしません、自
分の方から届け出でる心算

乗しかつて勝平太を刺通
して居りますから仲間の可
助、扱ては大變大方此んな
事だらうと思つた、打捨て
置く所でないでドン〜
其場を立退きまして、直に
屋敷へ立歸り右の次第を

斯様斯々の譯
と父の仇討の事を物語り
ましたから兩人に於ては直
ぐ様母子を同道して城内へ
立歸り、家老の大橋茂右衛
門に始終を語りました、茂
右衛門は兼てより勝平太に
目を注いで居りました、彼
は甲州浪人といふけれども
尋常の者でないと思つて居
りました處、案の如く舊惡
のあつた者と判り、死骸は
檢視すみの上形の如くに取
捨になり、母子の者は御褒
美を頂戴いたしましたおみ
ち百太郎に於ては漸く世の
中へ出たやうなもの、此時
に大橋茂右衛門より右の次
第を左衛門太夫正則公へ申
上げると、福島正則公是れ
を聞いて

正「茂右衛門、其みちと申
する者は女子に似氣なき天
晴の者ぢやな、勝平太は番
頭を勤め、武藝も宜くいた
す者であるに酔つたりとも
是を容易く討取るといふは
女丈夫とも申すべし、又伴
の百太郎と申す者十歳に足
らざる小兒にして、母を助
けて祖父の仇を報ゆるとは
健氣な者早速に目通り差許
すであらう」
茂右衛門承まはつて大き
に喜び

て其上に兩人控へて居る、
大橋茂右衛門、小關石見、
大崎亥蕃初め老臣一同が居
列んで居ります、殿様より
厚き御褒美下され、其の時
に正則は初めて見た馬淵源
十郎の妻みち、どうも貧に
迫つて居りますから、扮装
などは甚だ見苦しうござい
ますが、然しながら自然の
品格があつて、身分輕きも
の妻とは覺えん位、大層正
則公御意に叶ひまして、正
則公元來色氣のない武骨の
方でございしますが、明十
三日宮島遊覽の折に彼に本
船に打乗せ、盃を遣はすと
いふ事になりました。

で居ります所へ役人出張に
及びまして
忠「母子の者神妙にいた
せ」
み「恐れ入ります、謂は
れなく勝平太を討ちました
次第でございます、云々

と中日置いて兩人の者
を城内へ召されて、庭先に
於て正則公御目通り、けれ
ども縁先へ上る事は出來ま
せん、庭が敷いてありまし

花柳外科 門專
院醫科外村木
平町五丁目 橋目
電話 三九〇

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南七
電話 一七〇

磐城セメント會社特約店
久金屋商店
磐城平町五丁目 電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

咽喉專門
吉田眼科病院
平町七丁目 電話六八番

磐城共濟病院
電話 一六四一 番
電話 一二四 番

小兒科	內科	婦人科	外科	皮膚性病科	耳鼻咽喉科	X光線科	物理療法科	藥劑局	衛生試驗所
院長 石山謙二郎	部長 五十嵐雄二	部長 有馬勇二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎	部長 石山謙二郎

玉炭 炭 平驛前
石炭 阿部石炭商店
電話 三七番